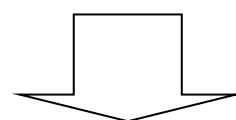


令和4年度授業改善推進プラン

教科 [国語] 科

学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1年	2年	3年
<p>学習意欲は全体的に高く、積極的な姿勢が見られる。文法や漢字の学習に対しては、機械的な作業ではなく、理解したことを自分でノートにまとめることができる。調べてまとめる作業も、書き写す生徒は少なく、自分で情報を取捨選択できる。ただし、調べたことをつながりをもって提示することができない。読解に対しては、文章の内容を理解し、自分の意見を述べるができる。意見の説得力を上げていきたい。また、精読できていないため、細かい部分を問う問題に対応できない生徒が多い。</p>	<p>学ぼうとする意欲が感じられる。小テスト等に対しても向上心をもって取り組む姿勢が見られる。ただ、文法に苦手意識がある生徒が多い。また、自分の意見に自信がもてない。発信しようとならないため、考えが広がらない。自分や他者の意見に対して疑問をもつことができないため深まりがない。文章の大まかな内容を捉えることはできるが、それに対する意見が漠然としている。自分の考えを吟味し、文章化することに課題がある。</p>	<p>どのような課題に対しても考える力がある。しかし、考えを文章に起こすまでに時間がかかったり、うまく表現ができなかったりする。課題に対して答えが外れてしまうこともある。また、話し合い活動が苦手な生徒が多い。考えを深めたり広げたりするための話し合いにはならない。相手の意見を聞くだけにとどまり、疑問をもつことはしない。</p>



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 理解して書いたことを、自分の知識として活用させる方法を提示する機会を設ける。 調べた内容をどう第三者に提示するか、その順番と方法を考えさせる時間を設ける。 説得力のある意見を発信するためには、どのような構成や伝え方が有効であるかを提示する必要がある。 文章を正確に読み、筆者の主張を明確に捉える方法を指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内での理解度は高く、それを自分に合った方法でノートにまとめる力はあるが、そこで満足してしまっている生徒が多い。復習の時間を多くとり、自分のノートを改めて見返す時間をとるようにし、解説を付け足したり、間違った部分は訂正をしたりして、より一層の理解を促すようにする。 調べるとは、様々な側面から調べることなので、調べたこと一つ一つのつながりはないこともある。それを、提示する順番やつなぐ言葉により、一連の流れにすることが大切であることを提示したい。よくできているレポートなどを提示し、何が分かりやすいのか考えさせることで、自分の反省へと促す。 説得力のある文章を提示した上で、自分の意見を見直し、相手に伝える練習を積み重ねる。また、構成や伝え方について相互評価を行い、自身の改善点を把握できるようにする。 文章中から問題提起や筆者の主張となる部分を探して印を付け、可視化するとともに、文章を区切りながら内容を捉えていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 文法の学習において、個々の理解度を上げていく必要がある。 意見が言いやすい環境や方法を考える必要がある。 意見の深め方を丁寧に指導する必要がある。 文章を書くことへの抵抗をなくすための工夫を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文法の学習において、問題の演習量を増やし、苦手分野を明確にさせるとともに、解き方のポイントを分かりやすく提示し、苦手意識を払拭する。文法に関するゲームを授業展開に取り入れつつ、積極的に文法学習に取り組めるようにする。 ペアやグループで意見交換をさせた後で全体に問いかけるようにする。ジャムボード等のソフトを活用して全員が意見を言いやすい方法を実践する。 グループワークの前に、他者の意見の聞き方や質問の仕方を提示して、発表だけにとどまらないようにする。教師も机間指導をする際に問いかけをし、自分や他者の意見に疑問をもてるようにする。 決められた字数・時間で自分の意見を文章化する活動を増やしていく。また書いた文章を推敲させ、改善点を見いだせるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、的確かつ適切な答えになるように導く工夫をする必要がある。 時間内に書くための方法を提示する必要がある。 話し合い活動が活発になるための工夫を模索する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対して、どのように答えるのか、型を提示する機会を増やす。型を提示することで、どういうことを聞かれているのか、どういうことを答えればいいのかということが、より明確になる。繰り返し指導し、答えの微妙な間違いを補正していく。また、お互いの指摘も重要である。お互いに読み合う時間や、発表し合う時間を取り、指摘し合えるようにする。 時間内に書き終わることも重要な要素であることを伝える。その上で、例文を提示することにより、書き始めのイメージをもたせる。 話し合い活動において、何をすればいいのかを具体的に提示する。また、活動中の良かった流れや発言をその都度紹介し、話し合いのイメージを具体化させるようにする。